

SHIRAKOBATO

しろこぼと



1998. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 176

日本野鳥の会 埼玉県支部

朱鷺をたずねて

榎本秀和（鴻巣市）

トキ（朱鷺）、中国語で朱鷄（チューファン）。中国陝西省の洋県では、今も野生の姿を観察することができる。

◇はじめに

人は時として、やむにやまれぬ衝動にかられることがある。11年前、私がヤンバルの探鳥に参加した時がそうだった。そして今回、中国のトキを観察するツアーに参加しようと思立ったのもそうである。

とまあ、中国へ行ったぐらいで大げさな書き出しとなってしまったが、妻と3人の子を養うお父さんが、時間と費用の捻出にいかにか苦心したかはお察しいただきたい。

さて、トキは日本人にとっては特別な思い入れのある野鳥ではないかと思う。国内では、佐渡島の施設にわずかに1羽が保護されているに過ぎない学名^{ニッポニア ニッポン} *Nipponia nippon*。その朱鷺色の飛翔をこの目で見てみたいと思ったのが、今回の旅（本年9月）の始まりである。

◇はるばると洋県

羽田から福岡、青島、西安、漢中まで飛行機を乗り継ぎ、漢中からは自動車。洋県の招待所（宿泊施設）によくたどり着いたのは、我が家を出てから2日目の昼のこと。この日は朝から雨が降って気持ちもしめりがち。日頃から晴れ男ともてはやされている私としては、何とかしたいものだが仕方がない。

洋県のあたりは外国人に対して未解放の地



郊外の村、壁にトキ保護の標語が…

域なので、どこへ行っても外国人を珍しがって人々が集まってくる。許可なく外国人が入れる土地ではないだけに、そしてその許可がいつも必ず取れるものではないらしいだけに、今回のツアーに参加できたということには計り知れない価値があるのだ。

ところで、洋県というのは「洋」という県なのか、「洋県」という町なのか、このところが前々からよくわからなかった。地元ガイドに聞いてもどうも埒があかないのであるが、私の想像では、県名でもあり町の名前でもあると思って間違いないさそうである。

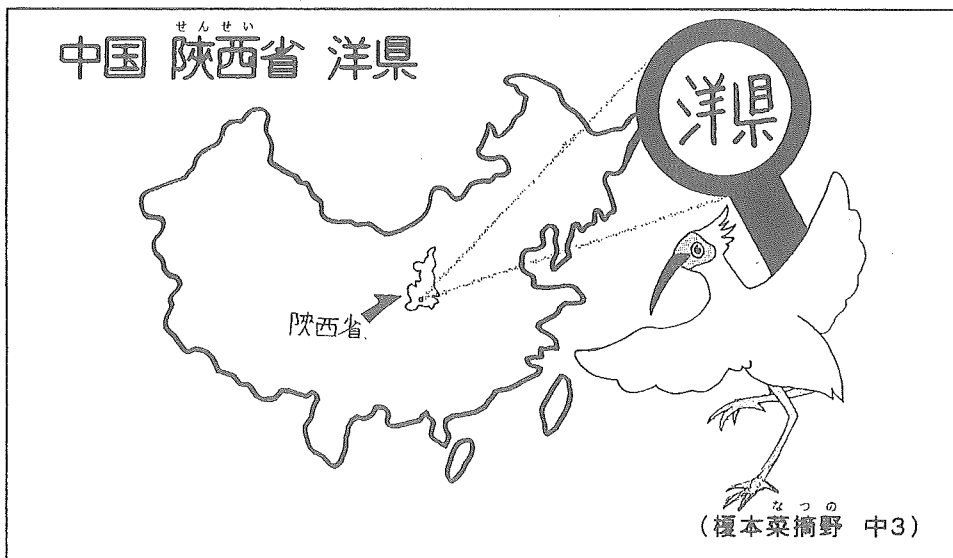
中国の地方行政区画は、最上級が省・自治区と直轄市（北京など4市）で、日本の都道府県にあたる。その下に市（地級市）や地区があって、陝西省でいえば西安市などが地級市。県としての洋県は、漢中市（県級市。地級市より格下）や幾つかの県と漢中地区（これも広義に漢中市というようだ）を形成する。そして洋県の中心の「まち」も洋県と呼び、周辺は鎮という単位の村落となる。地理の時間に習った「地方行政区画の末端は人民公社」というのは、今は昔の物語らしい。

◇ 憧れの朱鷺色

昼食後、車で15分ほどの郊外にある「トキ救護飼養センター」を訪ねる。万事についてそう思うのだが、センターの建物も日本人の感覚からすれば質素な造りであった。

応接室で簡単な説明を受け、以前NHKで放映した番組のビデオを見たあとは屋外のケージへ。当年生れの若鳥と成鳥とは別棟になっていて、それぞれ何区画かに分れており、若鳥26羽と成鳥19羽が飼育されていた。まずはここで本物のトキとご対面。

洋県のトキは、1981年に発見されて以



来、日中両国の当局や民間関係団体によって手厚く保護され、繁殖が試みられてきた。以前、中国から借りたトキを佐渡へ連れてきたことがあったが、あのトキもこのセンターのものだ。日本では人工繁殖の夢は潰えてしまったが、中国では成果が上がっていることはたいへん喜ばしい。来年からはいよいよ放鳥を始めるということである。

夕方、ねぐら入りを待つために草場そうばという集落に向かう。雨の中、そして外国人を見に集まる村人の中、待つこと1時間。この8月末現在で47羽の野生のトキが確認されるとはいえ、こんな天気でどうかな、などと考えていると、その時は突然訪れた。何の前触れもなく、いきなり頭上低く5羽のトキが現れ、裏山に止まったのだ。そのあと出たり入ったりしながら9羽見られたが、サギのねぐら入りと同様の光景である。結局そこでねぐらを取ったのは5羽だけだった。

真下から見あげたトキの翼の色は、雨降りの夕方の乏しい光の中でもはっきり見てとれた。あの鮮やかな朱鷺色を私はけっして忘れない。

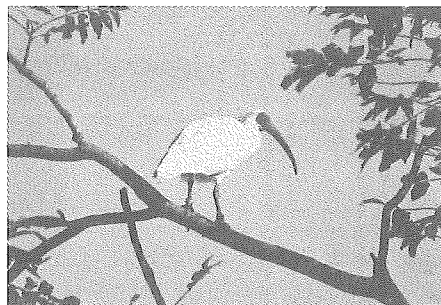
◇再びトキを求めて

翌朝、暗いうちに昨日のねぐらに行く。今日は晴れそうだ。あたりが明るくなるにつれて、樹上のトキの動きがせわしくなってくる。

次の瞬間、いともあっさり5羽は飛び去ってしまった。

朝食後は車で入れるところまで入って、あとは徒歩でトキを探すことになった。しかし、いくら歩いてもトキはいない。まわりには稲刈り前の田んぼが広がる。このあたりの土壌は粘土質の赤土で、雨上がりを歩くと、何歩も歩かぬうちに靴の裏にぼってりドロがついてしまう。ドロまみれの、文字どおり重い足取りの私たちに向けて、土地の人から出る言葉は「先週はいたんだけどねぇ」という慰めばかり。ちなみに、地元ではトキのことを紅鶴（ホンフー）とも呼んでいる。

昼食後はさらに奥地まで入る。30分ほど歩いて、ようやくかなたの水辺に数羽を発見。さらに30分歩いて200mほどに接近。そのうちバラバラ飛び立って、1羽が樹上に降



トキ（四郎鎮、清涼水庫にて）

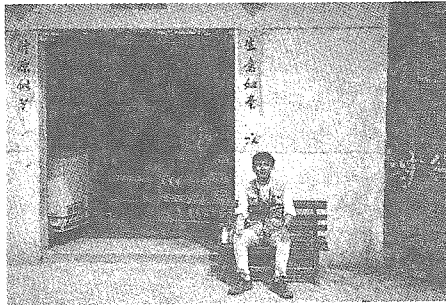
りる。やや遠いが、シャッターを切る。全部合わせて10数羽の群れだった。

その夕、草場のねぐらには1羽も来なかった。ねぐらは何か所かあるとのことで、毎日同じ場所でねぐらを取るわけではないらしい。

◇再見(サイェン)！ 洋県

次の日も晴れ。昨日の場所でもう一度トキを探ることになったが、私はもう十分に満足していたのでパス。小鳥を探しての探鳥に切り替える。あまりにトキー本槍で、それ以外の野鳥を丁寧に見ていなかったからだ。

そうこうしているうちに、足掛け3日間過



店先でちょっと休憩…

伊良湖岬上空リアリティー

上野越郎(川越市・中1)

サシバ単独モード…山の上のトビより高く、スーッと1羽のサシバが飛んできた。速い、速い、軌道に乗った人工衛星となつて。

サシバ編隊モード…山からわき起こる編隊飛行は、海の上にも陸の上にも散らばって。チゴハヤブサ…上空のサシバをはばたきながらごぼう抜き。

ミサゴ…大空に大きく細長く羽をはばたかせ、海に目もくれない。

ツミ…低い空をマイペースで渡っていった。ハチクマ…埼玉出身。服装色々。小顔美人。ノスリ…おなじみの紋付き装束。1羽で渡る孤独なノスリ。

トビ…おっと忘れちゃいけないよ。僕らは渡りのはげまし役のトビ軍団。

ハヤブサ…マッハ3.5。大空を切るスプリンター。

ツバメ…案外ばらけて自由集団。その中の1年生、頑張り。

ヒヨドリ…集団で渡ろうかどうか考え中。

ごした洋県に別れを告げる時刻がやってきた。帰りは漢中から西安までの飛行機がないので寝台列車の旅となる。

中国は、大都会はともかく、洋県のような奥地まで来るとまるっきりの田舎である。良い意味でも悪い意味でも「50年前の日本の姿」ではないかと思ったりする。日本とは違う町の臭い、日本人の口に合わない食事(しかし向こうではご馳走だ)。カルチャーショックという弱気な思いと、「これこそ中国」という前向きな気持ちが交錯しながらの毎日だったが、「これだから旅はおもしろい！」とあらためて実感したのも確かである。

今回の旅で得た成果がもうひとつ。20代のころ何年か学んだ中国語がけっこう役に立って、外国語を使う楽しさを味わうことができたということ。海外では、英語を使える人をうらやましく見ていたのだが、今回ばかりはそんなコンプレックスは消え、晴れがましい思いをすることさえあった。この次、中国を訪れる時まで、自分の中国語にもっと磨きをかけておくことにしよう。

ハクセキレイ…君はどっちだ。集団？単独？
僕らは、初めての伊良湖に大喜び。♪ダッテ、ワタリなんだもん♪

はみ出し行事案内

宮城県・伊豆沼探鳥会(要予約)

期日：1月30日(土)～31日(日)

集合：30日午前6時45分 JR大宮駅西口代々木ゼミ前。出発は午前7時ごろ。詳細は参加者に別途通知致します。

交通：往復とも貸切バスを利用

費用：19,000円の予定(バス代、1泊2食付き宿泊費、懇親会費、保険料を含む)万一過不足は当日清算。

定員：15名(先着順・支部会員優先)

申し込み：通常はがきに住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫()まで。

担当：中島、櫻庭

見どころ：銀世界の湖面から、日の出と共に一斉に飛び立つマガンの大群は、感激そのものです。カギ形、V字形の雁行も楽しみです。伊豆沼周辺を歩き、猛禽類・小鳥たちも探しましょう。積雪の中を歩きますので防寒と足ごしらえは充分にしてください。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室は用意できません。

1997/1998年冬 「鳥の目から環境を調べよう！」調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

表1 調査結果一覧

種	高層住宅地区	1~2階建て住宅地	商業地区	工業地区	農業地区(主に畑)	農業地区(主に水田)	林業地区	件数
ヒヨドリ	4	26		1	3	3	1	38
スズメ	4	24		1	3	3	1	36
メジロ	4	23		1	3	2	1	34
キジバト	4	21		1	2	2	1	31
ムクドリ	4	22			2	2		30
シジュウカラ	3	21			3	1	1	29
ハシブトガラス	4	16			3	1		24
ハクセキレイ	3	14			2	2		21
ジョウビタキ	1	15			2	3		21
オナガ	1	16			2	2		21
ツグミ	2	15		1	1	1		20
カワラヒワ	2	13			2	2		19
ハシボソガラス	1	14			1	2		18
コサギ	2	7			1	2		12
モズ		7			2	3		12
ウグイス	1	10			1	1		12
コゲラ	2	8			1			11
セグロセキレイ		6				2		10
シラコバト		5				3		8
カワウ	2	4				1		7
シメ		3			2	1	1	7
アオジ		4				1		5
ゴイサギ	1	2				1		4
ダイサギ	1	2				1		4
ホオジロ	1	2			1			4
カシラダカ		3			1			4
キジ		1			1		1	3
キセキレイ		3						3
ドバト	1	1		1				3
アオサギ					1	1		2
カルガモ	1	1						2
コジュケイ					1		1	2
カワセミ		2						2
マヒワ	1	1						2
マガモ		1						1
チョウゲンボウ		1						1
タシギ		1						1
ユリカモメ		1						1
アオゲラ					1			1
アカハラ		1						1
エナガ							1	1
ヤマガラ							1	1
カケス					1			1
43	50	317		6	44	43	10	470

1997/1998年冬の「鳥の目から環境を調べよう！」調査は、38件の回答を頂き43種(表1)が観察されました。回答はがきの郵送時期の関係から少ない回答件数でした。調査にご協力下さった会員各位の自宅から半径50m以内の7種の環境におけるそれぞれ上位5種を表2に示します。更に1995/1996年冬からの全地区の上位5種を表3に示します。

ヒヨドリとメジロは、在地繁殖群に越冬群による追加のため今回も観察の機会が増えたと考えられます。本調査期間はツグミが、冬前半の暖冬気候のためかトップ5に入っていません。

1998/1999年冬の本調査は、12月1日から1月31日まで行いますので、会員各位の自宅から半径50mで見られた鳥を1月号に同封の調査はがきに記入頂き返送下さるようお願い致します。なお本調査の性格からワカケホンセイインコのようなかごぬけの種も記入下さるようお願い致します。(小荷田行男)



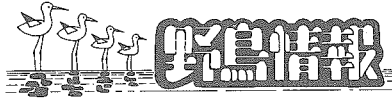
(五十嵐貴大)

表2 埼玉県における環境別上位5種(冬鳥)

環境	1位	2位	3位	4位	5位
高層住宅地区	ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバト、ムクドリ、ハシブトガラス				
1~2階建て住宅地区	ヒヨドリ	スズメ	メジロ	ムクドリ	キジバト、シジュウカラ
商業地区	データなし				
工業地区	ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバト、ツグミ、ドバト				
農業地区(主に畑)	ヒヨドリ、スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハシブトガラス				
農業地区(主に水田)	ヒヨドリ、スズメ、ジョウビタキ、モズ、シラコバト				
林業地区	ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、シメ、キジ、コジュケイ、エナガ、ヤマガラ				

表3 埼玉県における全地区の上位5種

	1位	2位	3位	4位	5位
1995/1996冬	ヒヨドリ	スズメ	ムクドリ	キジバト	メジロ
1996/1997冬	ヒヨドリ	スズメ	ツグミ、ムクドリ		メジロ
1997/1998冬	ヒヨドリ	スズメ	メジロ	キジバト	ムクドリ



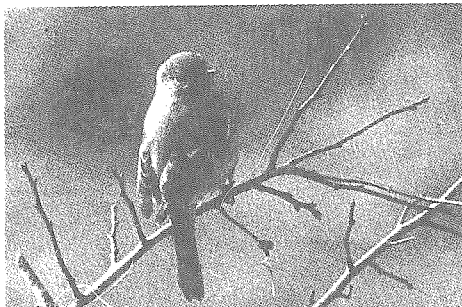
野鳥情報

久喜市吉羽 ◇10月7日午前11時30分頃、フクロウ1羽。どんよりとしたくもり空の下、10羽ほどのカラスが騒いでおり、同じ位の大きさの鳥を飛びながらつきあっていようだった。突然変異で白っぽくなった仲間をいじめてでもいるのだろうかと思って見ていたら、それは、フクロウだった。初めて見た事とこんな所にもいるんだとの思いで驚いてしまったが、その後どうしたろう？ とても心配だ(井上暁子)。

大宮市日進町1丁目 ◇10月16日、モズ1羽、高鳴きをこの秋初めて聞く。10月27日、アオジ1羽。10月29日、ジョウビタキ1羽。10月30日、シメ1羽。11月9日、キクイタダキ1羽。11月11日、ツグミ1羽、ヒガラ1羽、ビンズイ2羽。以上初認(森本國夫)。

入間市藤沢中学校付近 ◇10月16日午前7時30分頃、車のフロントガラスの前をアオゲラが横切り、道路脇のマテバシイの木にとまった。こんなこともあるんですねえ(吉田郁子)。

川本町荒川明戸堰上流 ◇10月18日、ノスリ1羽、カワセミ2羽、コガモ5羽、ダイサギ1羽、コサギ1羽、アオサギ4羽、イワツバメ約30羽、アカゲラ♂♀各1羽。10月31日、キビタキ、なんとこの時期にきれいなオスが1羽。暖かい気候に渡りが遅くなったのか？ オオタカ2羽、ノスリ3羽。ノスリはカラスにモビングされていた。コハクチョウ17羽、カルガモ、マガモ、コガ



ジョウビタキ(外園 たけの)

モ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、スズガモ。ジョウビタキ♂♀各1羽、タゲリ4羽、イカルチドリ1羽(後藤康夫・喜久子)。

東秩父村二本木峠～登谷山 ◇10月18日、カケス2羽、カワラヒワ50羽、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ(後藤康夫)。

坂戸市城山 ◇10月19日、エナガ、メジロ、シジュウカラ、コゲラ、ヤマガラの混群約50羽。10月27日、ジョウビタキ♂1羽、今期初認。メジロの群れ20羽。10月28日、アオゲラ♂♀各1羽、木の枝に2羽がとまりお互いに首を左右に振って、5分程やっていた。求愛行動だろうか？ アカゲラ1羽。11月6日、シメ♂1羽、今期初認。11月9日、林縁の枯れ草の上にアリスイ1羽(増尾隆・節子)。

戸田市道満彩湖とその周辺 ◇10月20日、南部のいかだの上でハジロクロハラアジサシ1羽。10月25日、北部のブイの上で2羽。コミミズク1羽、荒川本流方面から飛来。南の方を一回りして来た。管理橋上あたりから東に行き、道満グリーンパーク南側の森付近で見失う。アリスイ1羽、道満グリーンパークの池のほとりの桜の木にとまる。どうやらこのあたりに居ついたようだ。10月28日、タゲリ6羽、上空通過(倉林宗太郎)。◇10月25日、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、スズガモ。カモが大分渡って来た。オオタカが水面すれすれを駆けてカモをねらった。狩りに成功したようだが、物陰で確認できない。ハヤブサが上空でフェイントをかけると、アオサギ30羽ほどが一斉に飛び立った。クロハラアジサシ冬羽1羽が幸魂大橋付近を飛んでいたが、どこにも降りないで飛び去った。ハジロクロハラアジサシ冬羽2羽は、上流貯水機場近くのブイの上にとまった、足がまだ赤い。11月1日、ハヤブサは幸魂大橋の橋塔の頂上にとまって、しばらく動かない。コミミズクが飛んだ。正面から飛んできたので、近距離で目と目が合ってしまった。いったん地上に降りたが、ハシブトガラス10

羽ほどに追い出されて、上空高く西方向に姿を消した。ジョウビタキ5～6羽、メスが多い。ツグミ、アオジも。夏羽の残っているカンムリカイツブリ3羽が潜水を繰り返していた。いよいよ冬鳥が楽しみな季節。いいですね日本の冬（海老原美夫）。
 ◇11月1日、チョウゲンボウがカラスにモビングされていた。コミミズクが2羽のカラスにモビングされていたが、カラスの応援が増え20羽位になった（森秀夫）。

吉見町吉見百穴周辺 ◇10月25日、チョウゲンボウ♀1羽、高圧線鉄塔上でスズメらしい小鳥を食べていた。カワセミ♂♀各1羽（後藤康夫）。

蓮田市黒浜沼 ◇10月31日午前7時30分頃、下沼南側の田んぼでタゲリ10羽。知らずに近づいたら、鳴きながら飛び立ち、200m位先の田んぼに降りた。今期初認。ここ3年の記録では、一番早い確認。期待していなかった分、初観察に感激。午前7時50分、上沼でカワセミ1羽。最近よく姿を見せてくれる（田中幸男）。

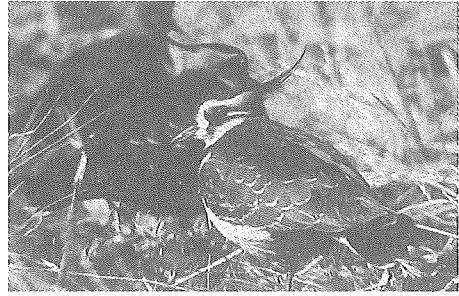
志木市柳瀬川 ◇10月31日、市役所前でジョウビタキ♂1羽、ハシビロガモ1羽、タシギ13羽、ユリカモメ6羽（藤掛保司・宮子、志村佐治・美月）。

東松山市都幾川稲荷橋周辺 ◇10月31日、シメ約30羽、カシラダカ1羽、アオジ8羽、カララヒワ80羽、イカルチドリ5羽、バン1羽、ノスリ2羽（後藤康夫）。

大宮市高鼻町大宮公園 ◇11月1日、ビンズイ2羽（浅見健一）。

鴻巣市登戸 ◇11月1日、自宅で午前中にツグミの声を聞く（石井智）。

大宮市丸ヶ崎 ◇11月1日、ジョウビタキの



タゲリ（海老原 美夫）

声を聞く（藤原寛治）。

奥秩父十文字峠周辺 ◇11月1日午前6時～7時、マヒワ20～30羽の群れを何回も見た。それぞれ違う群れだとしたら、かなりの数になる。ツグミ、ウソ、ルリビタキ（小林洋一・みどり、荻野久美子）。

滑川町森林公園 ◇11月3日、コジュケイ約10羽、北口近くの林道で1羽が警戒しながら出てきたかと思うと、次々と後に続いて10羽ほどが足早に道路を横断。カケス3羽、アオゲラ♂1羽、アカゲラ♂1羽、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、オナガガモ（後藤康夫）。◇11月8日午後4時30分、北口上空でハヤブサ1羽、羽ばたきながら西の方へ飛び去る（藤原寛治）。

嵐山町槻川二瀬川～槻川橋 ◇11月3日、アリスイ1羽、槻川と都幾川の分岐点にあるニセアカシアの木にとまっていた。5分ほどじっくり観察できた。ツグミ4羽、ハイタカ1羽、林の頂から突然飛び上がり、その後カラスにモビングされながら遠くへ去っていった。カワセミ12羽、キセキレイ8羽、本日は、この2種が大変目についた。ジョウビタキ♀1羽（後藤康夫）。

表紙の写真

ミヤコドリ（チドリ目ミヤコドリ科）

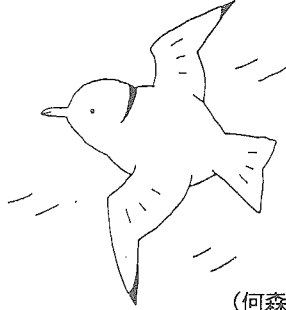
今年の冬は、船橋海滨公園（三番瀬）にたくさん来ています。この撮影に行った11月7日には、25羽まで数えました。

新聞などで、潮の干満時間を確認してから出かけてください。満潮の時は、左手奥の防

波堤の方に行っちゃいますから。

京成船橋駅（JR船橋駅近く）又は京葉線二俣新町駅付近のバス停から「船橋海滨公園」行き。1月には支部の探鳥会も予定されています。電車バス歩きの鳥見人（編集部）

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆12月5日 蓮田市黒浜沼探鳥会は11月号をご覧下さい。

ちとの出会いを楽しみに、冬の訪れを肌で感じながらのんびりと散策しましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月6日（日）

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、内藤、榎本、大坂、立岩、永野（安）、永野（京）、川那部、島田、高（文）、山田

見どころ：あなたは小鳥派？ ガン・カモ派？ ワシ・タカ派？ それともキツツキ派？ それぞれの好みの鳥達がこの里山にきつというはずですよ。自分なりの視点で楽しんでみませんか。意外な発見があったらちょっと得をした気分になるでしょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：明戸堰上流で常連客のコハクチョウ、カモ類のほかジョウビタキ、シメ、アカゲラ、アオゲラがきつと見られるはず。それに運がよければオオタカやノスリにも会えるでしょう。今年1年を振り返りながら、冷たく澄み切った枯れ野を歩いてみましょう。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：12月6日（日）

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行8:36発に乗車、念仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、新堂、笠原、吉岡、若林、倉林

見どころ：ツグミやジョウビタキ、タゲリた

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月13日（日）

集合：午前8時30分 東武野田線岩槻駅前。
または午前9時15分 文化公園駐車場（国道16号側）

交通：東武野田線大宮8:12発、または春日部8:11発大宮行に乗車、岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：中村（榮）、中島（康）、吉安、橋口、玉井、入山、松永

見どころ：今年の2月に初登場の探鳥地。そのときは大好評でした。公園とその周

辺を歩きます。林や、アソ原でジョウビタキやツグミが、水辺ではカモやカモメの仲間が皆さんを待っていますよ。身近なところにも自然は沢山！

鴻川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月13日（日）

集合：午前9時40分 森林公園南口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乗車、終点下車

費用：入園料400円（子供80円）

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、青山、島田、喜多、後藤

見どころ：冬の森林公園探鳥会の幕開けです。暖冬のせいでしょうか、ここで見られる冬鳥が以前より少なくなったような気がします。小鳥の声を森に聞きながら落葉に埋まる小道を山田大沼へ歩きましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：今年最後の探鳥会となりました。大雪や大雨で4回も休んでしまうなどいろいろと苦しい年でしたが、明るい明日を信じて、しまいの鳥見において下さい。12月の三室と年末講演会に行かないと、1年が終わらないという方も多いようで…。

年末講演会

期日：12月23日（水・祝）午後1時30分～4時30分（受付開始午後1時）

会場：埼玉県県民活動総合センター（伊奈町）TEL048-728-7111

交通：ニューシャトル大宮12:00、または12:30発に乗車、羽貫下車。無料送迎バスに接続。またはJR上尾駅東口から

羽貫駅行きバス12:04発、終点下車。無料送迎バスに接続。無料駐車場あり。

第1部 ビデオによる「今年の出来事」

午後1時30分～2時

第2部 山形則男講演会

午後2時～4時30分

写真家として、長年野鳥の世界を撮影してこられた山形氏に、スライドを使いながらお話しをしていただきます。

第3部 懇親会（希望者のみ）

講演会終了後、センター1階のレストランに場所を移しての軽い立食パーティ。多数のご参加をお待ちしています。参加費4000円。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月26日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：何かとせわしい年の暮ですが宜しくお願いたします。これを済ませないと「しらこぼと」一家は年が越せないのです。

浦和市・さき山記念公園探鳥会

期日：平成11年1月3日（日）

集合：午前9時30分 さき山記念公園駐車場

交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田引き返し場行きで約20分、上野田下車。当日は正月ダイヤで1時間に3～4本運行されるはずです。

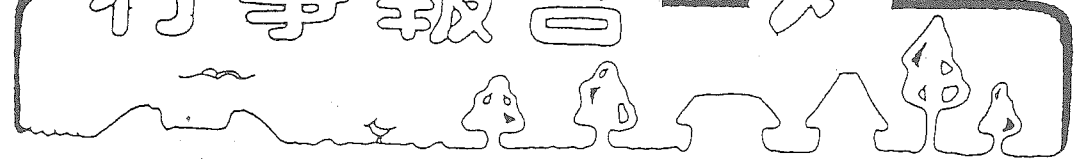
担当：海老原、松井、楠見、櫻庭、工藤、新堂

見どころ：年の始め、改まった気持ちで双眼鏡をのぞけば、おなじみの冬鳥もどこかキラキラ、新鮮です。トリ詣での後は恒例のほろ酔い新年会。持ち寄りの飲み物を手に、野鳥たちの未来に乾杯！

◆毎年12月はJR・私鉄などダイヤの改正がありますので、時刻表を確認の上お出かけください。

◆行事案内は4頁にも掲載されています。

行事報告



10月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 48人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ サシバ チョウゲンボウ コジュケイ バン キジバト カッコウ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 約2週間ぶりの快晴で、真夏を思わせる陽気。でも風は秋の風。夏草で見づらくなった高尾の池でカモの仲間、バン、10羽程のゴイサギの幼鳥を見る。遠方の樹間や電柱に止まるオオタカ、チョウゲンボウを執念(?)で発見。サシバも美しい羽を広げて舞ってくれた。したたかに 残る暑さや探鳥会 冬鳥たちの 姿まばらに (内藤義雄)

10月4日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 55人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ アリスイ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 雨、雨又雨。季節感がないまま、もう10月。秋空にショウドウツバメ、田圃でノビタキ、農道の並木でアリスイを見つけて、やっと秋を実感。差間の目玉になったカワセミも現われて、久々に快晴の下での探鳥会を楽しむことができた。(手塚正義)

10月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 45人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ バン イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ コゲラ ヒバリ ショウド

ウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 参加者の数人から猛禽類が多いとの案内があったので来たといわれ、責任を感じたが出発間もなく上空にチョウゲンボウが現われたのを皮切りに、ハヤブサ、オオタカ、ノスリが次々と舞い上がった。明戸の堰では、カワセミが目の前で魚を取り、テトラにたたきつけて飲み込む様子が見られた。この日は上空を見上げている方が多く、首が痛くなる一日だった。(和田康男)

10月11日(日) 浦和市 大久保農耕地

参加: 54人 天気: 晴

カワウ ヨシゴイ チュウサギ コサギ コガモ オオタカ チョウゲンボウ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) バス組を出迎えたのは、現地集合組とチョウゲンボウとオオタカ。開始前にじっくり観察。鳥を見に来たのに、朝の挨拶ができないので、見るのを止めてくださいと声をかける始末。ノビタキも見られて満足。(福井恒人)

10月18日(日) 浦和市 三室地区

雨のため中止。

10月24~25日(土~日) 長野県 戸隠飯綱高原

参加: 31人 天気: 24 晴、25 曇時々雨

カイツブリ カルガモ ヒドリガモ ミサゴ トビ ノスリ タカsp キジバト アオバト アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キクイタダキ キビタキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ

ホオジロ カシラダカ ノジコ アオジ アトリ
カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ
カケス ハシブトガラス (45種) 参加者の心掛け
が良かったのか天気が回復してきた。一の鳥居は
鳥影が少なかったが、今シーズン初めてのツグミ
たちに出会えた。別荘地ではアトリの群れ、カラ
類を観察したが、ちょっと物足りなかったようで、
夜の宴会では明日への期待で盛り上がった。二日
目、朝食前は各自フリーで観察。アオバトを見る
など収穫があった。今回のハイライトは、ささや
きの小道からキャンプ場にあった。足を進めるご
とに飛び立つツグミ類。お目当てのマミチャジナ
イもバッチリ。その後、本命のムギマキ。きれいな
雄成鳥も見られて大感激だった。(菱沼一充)

10月25日(日) 行田市 さきたま古墳公園
参加: 29人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ マガモ コガモ カルガモ オオタカ チョ
ウゲンボウ キジ キジバト ツツドリ カワセ
ミ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホ
オジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ ス
ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (32種) 雨も上がり、朝から好天気
の秋らしい日になった。ヒヨドリがしきりと鳴く
中、上空にオオタカがカラスにモビングされな
がら登場。陽光を浴びて美しい羽を見せてく
れた。カモ類は少なかったが、古墳の池でゆ
っくり見ることができた。ジョウビタキも止
まったところは見られなかったが、飛んでい
るところを紋で確認し、今秋の初見だった。
風が強く、まだ木の葉も緑濃く、小鳥たち
の姿はまばらだった。でも、オオタカ、
チョウゲンボウは美しかった。(内藤義雄)

10月25日(日) 川越市 西川越
参加: 46人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ
カルガモ コガモ チョウゲンボウ イカルチ
ドリ イソシギ キジバト カワセミ アリスイ
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ モズ カワラヒワ スズメ ムクドリ オ
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種)
前日の雨も上がって快晴だ。集合の間にも
チョウゲンボウが2羽頭上を通った。モズも
コースのあちこちでキチ・キチと煩い。常
連のカワセミ

は水上公園で1羽、入間川で雌雄のペアで
ゆっくり見られた。ここでは初めてのアリス
イが出たが遠くてちょっとがっかり。
(佐久間博文)

10月31日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 20人

荒木恒夫、江浪功、海老原教子、大坂幸男、
尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、
佐藤千香子、佐藤正之、島田恵司、
島田沙織里、志村佐治、田中幸男、
福井昭子、藤掛保司、藤野富代、
松村禎夫、百瀬修、谷津弘子、山野豊

11月1日(日) 上尾市 丸山公園
参加: 37人 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ オナ
ガガモ オオタカ コジュケイ キジバト
カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ カケス オナガ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (32種) 2名の
若い鳥博士を含め総勢37名で開始。
公園内は他行事のため鳥が少なく
い。ちらりとカワセミに会い、
荒川土手に移動。モズの高鳴きを
聞き、小枝で休むオオタカ若を
全員で確認。ジョウビタキ、シ
メ、ツグミ達も挨拶に出てくれ
た。秋晴れでなかったのが残念。
(浅見健一)

11月8日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 17人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオ
サギ コハクチョウ マガモ カルガモ
コガモ オナガガモ ホシハジロ トビ
オオタカ ノスリ コジュケイ キジ
バン キジバト カワセミ アカゲラ
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウ
カラ メジロ ホオジロ カシラダカ
カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (40種) 探鳥会が3ヶ所
で催されたためか、快晴にもか
かわらず参加者は少なかった。
下見でツグミ数百羽、コハク
チョウ33羽の到着を確認。冬
鳥の到来は順調と判断したと
おり、カモ類6種、アカゲラ、
シメも数回現われてくれて、
参加者を喜ばせた。
(和田康男)

連絡帳

●三角目印を復活しました

このページの右側中央部にある三角は、ファイル用の穴を開ける時の目印です。

あらかじめ位置を指示しても印刷や裁断の段階ですれてしまうことが多く、しばらく付けないでいたのですが、インターネットのホームページに、やはりマークを付けてほしいとの要望が寄せられ、少し工夫して、試しに復活してみました。

●『英名講座』英語読みのカタカナ表記

不定期連載『白頭鷺の英名講座』の英語の読み方をカタカナで表記してほしいとの要望が届きました。筆者の松井昭吾前支部長もいろいろ検討したのですが、英語の発音をカタカナで適切に表現することは難しいと、頭を抱えています。

●東京支部のシンポジウム

テーマ：とうきょうのカラスをどうすべきか
趣旨：首都圏市街地のカラス問題。カラスの実態と人との関わりについて討議し、問題点を整理して、対応を考える。

日時：1999年1月17日(日) 13時～16時
場所：立教大学(池袋駅徒歩10分) 5号館1階512教室

主催：日本野鳥の会東京支部
後援：(財)日本野鳥の会ほか
パネラー：上田恵介(立教大学助教授)、川内博(都市鳥研究会)、松田道生(野鳥研究家)ほか。

定員：先着250名 参加費：1,000円
問合せ先：東京支部(電話03-5273-5141)

●栃木県支部は30周年記念連続シンポジウム

第1回：1999年1月24日(日)、とちぎ健康の森(JR又は東武宇都宮駅からバス約40分)、「翼を持ったメッセンジャー渡り鳥から見える地球」、パネラー：樋口広芳・呉地正行。

第2回：2月20日(日)、栃木県立博物館(JR又は東武宇都宮駅からバス約20分)、

「つなげる・生まれる・新しい保護運動ー日本の自然保護の現状・未来」、パネラー：花輪伸一・高松健比古。

第3回：3月14日(日)、栃木県立博物館、「ここが原点！ー見つめ直そう身近な自然」、パネラー：守山弘・日置佳之。

3回とも 講演 13:00～15:20
総合討論 15:30～16:20

参加費：500円(資料代) 申込み：不要
主催・問合せ先：栃木県支部

●ごめんなさいコーナー

前月号4ページの写真は左右入れ違っていました。普及部会議は、飲み会ではありません。7ページ「表紙の写真」のコメントは一部句読点が乱れています。校正の時の指示がうまく印刷所に伝わらないこともあります。

●12月の事務局 土曜と日曜の予定

5日(土) 普及部会議。
12日(土) 編集会議、研究部会議。
19日(土) 校正作業。
20日(日) 役員会議。
26日(土) 袋づめの会。

●会員数は

11月2日現在3,063人です。

活動報告

10月18日(日) 役員会議(司会：浅見徹、年末講演会・1月～4月の行事予定・事務局賃貸借契約の更新・その他)。
10月24日(土) 11月号校正(海老原美夫・喜多峻次・喜多彌生・倉林宗太郎)。

編集後記

最近自転車に乗って、道路右側を走っている人が多いんです。正面から対向して来て危ないんですけど、お前が邪魔だとばかりに、ちゃんと左側を走っている私が逆ににらまれちゃうんです。ご婦人が多いんです。自転車も交通ルール守ろうよ。(自転車の鳥見人)

『しらこぼと』1998年12月号(第176号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事は上記ホームページに転載されることがあります。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用